

# 旭川敬老園だより

第 72 号  
岡山市北区祇園866  
特別養護老人ホーム  
旭川敬老園  
発行責任者 森 繁 樹  
電話 (086) 275-4349



1月10日、地域交流ホールにて「新年のご祈念」を行い、本年の安全と健康をお祈りしました。

## 新しい一年に向かって

園長 森 繁 樹

昨年は、東日本大震災や福島原発事故等、わが国を揺るがす大変な事態に見舞われました。これらの事態はまだ収束が見られないところから、復興や復旧への取り組みはこれから本格化していくところです。力強い復興に、日本の明るい未来を期待したいと思います。

さて、新しい年を迎えたばかりではありますが、事業年度ということで見れば締めに入る時期でもあり、新しい年度に向けての準備を進めていく時期です。この一年を振り返ってみれば、いろいろなことはありましたが、ここ旭川敬老園においては大きな事故やトラブルもなく過すことができましたように思います。

この一年の中で、特に感じたのが家族会の方々のご協力と職員の成長です。木下会長のリーダーシップの下、家族会の皆様方にはいろいろな形でのご支援・ご協力をいただきました。春と秋の総会のほか、夏には旭川荘全体の夏祭りに向けての清掃活動、また年末にはお部屋の大掃除を兼ねて、多くのご家族が集まってくださり、その後のご入居者との忘年会にもご参加いただきました。日頃からも、多くのご家族の方々に訪問・面会をいただいております。こうしたことが入居者や職員にとっても、日々の暮らしの刺激や活性化にもつながっています。改めて、御礼申し上げます。

また、介護職場を取り巻く状況が厳しい中、ここ旭川敬老園でも慢性的な人手不足が続いてきましたが、それぞれの立場で職員が、それぞれの範囲で頑張ってくれていました。日々のユニット内での介護サービスはもちろんですが、園内での各種委員会活動の他、十二月に行われた荘内の医療福祉学会等では、多くの職員が協力し合い、複数題の研究発表に取り組みました。なかなかの力作ぞういであつたかと思えます。更なる展開・発展を期待したいと思います。

新たな年度を迎えていくに当たり、初心に戻っていろいろな点を見直し、これまで以上のサービスの向上に向け、職員一同、新たに頑張って取り組んでいきたいと思います。

## 編集後記

お正月は、もともと豊穣を歳神様に祈念する行事だったそうです。門松や御節は何のためにあつて御節を食べる祝賀はなぜ両側が細くなっているのか、季節行事の本来の意味を調べてみると深いものがあります。

旭川敬老園だよりの本来の意味は何なのか、よく考えながら発行していきたいです。(田村)



十二月十二日、川崎医科大学混声合唱団『Fessie』の皆さん十三名が来園され、美しい歌声を披露してくださいました。伴奏はほとんどなく、歌声のみで表現される四季折々の懐かしい唱歌がとても素晴らしく、入居者の皆さんもうっとりとして聞き惚れていました。また、アップテンポの楽しい曲になると手拍子と一緒に歌われる方もおられ、とても有意義なひと時となりました。

## ありがとうにむかいました



十二月二日、神戸海星女学院小学部母の会の皆さんが来園され、赤い包みに入ったクリスマスプレゼントをすべての入居者の方に配ってくださいました。今年はかわいく、あたたかいメッセージが書いてあるクリスマスカード、タオル、刺繍などでフポイントをあしらった肩掛けをいただきました。これは親子で夏ごろから準備されているとのことと、とても手間をかけてくださっているものです。大切に使用させていただきます。

## おめでとうにむかいました

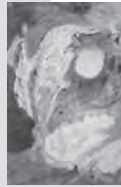
この度、旭川荘アートギャラリー第二回特別展にて、多数の応募作品の中から旭川敬老園より、名誉理事長賞に永瀬万壽子様の「月夜の並木道」、特選に藤原勉様の「鳥籠」が選ばれました。受賞おめでとうございます。特別展は一月三十一日まで開催されています。その後も常設展など、年間を通して旭川荘各施設利用者のアート作品が展示されています。皆さま、ぜひ気軽にアートギャラリーに足を運んでアートの魅力に触れてみてください。



永瀬万壽子様



藤原勉様



「月夜の並木道」



「鳥籠」

平成二十三年敬老の日に百歳の長寿を達成され、内閣総理大臣より表彰を受けました。野崎様は平成十四年に入所され、好奇心旺盛な方でよく読書をしていました。また、知識人であり若い職員には、勉強しなさいよと諭されたり、他のご入居者には「頑張らにやいけんぞな」と励まされる姿は凛とされており、皆さん勇気づけてくださいました。



お元気な頃の野崎様。現在ではベッド中心の生活になっています。

